

全体プログラム概要

1. 導入・消防体制と 119 番通報のしくみ(約 10 分)
2. 乳幼児の心肺蘇生法(実技含む)(約 30 分)
3. 痙攣(ひきつけ)時の対応(バクスミー含む)(約 10 分)
4. アナフィラキシー(エピペン含む)(約 10 分)
5. 窒息時の対応(約 10 分)
6. 水難事故の対応・予防(約 5～10 分)
7. 現場での経験談(約 15 分)
8. まとめ・質疑応答(残り時間)

1～6 の内容でだいたい 1 時間半前後、7 と 8 で合計 30 分程度を想定しています。

1. 導入・消防体制と 119 番通報のしくみ(約 10 分)

- ・ 自己紹介・目的説明
 - 消防士としての経歴、救急隊長・指導救命士としての役割
 - 今日の講習では「乳幼児に多い緊急事態への対応」を学ぶ
 - ・ 消防体制の概要
 - 管轄する消防本部の体制、出動形態
 - 資機材や人員配置などの簡単な紹介
 - ・ 119 番通報システム
 - どのように通報が受理され、救急隊が出動するか
 - 通報時に伝えるべき情報(場所、状況、年齢、症状 など)
 - ・ 搬送件数や主な搬送先医療機関
 - 年間どのくらいの救急要請があるのか
 - おもな小児の受け入れ病院
 - 「この地域ではこういう症例が比較的多い」などの特徴があれば共有
-

2. 乳幼児の心肺蘇生法(約 30 分)

1. 理論的なポイント(10 分)

- 成人との違い: 力加減、頭部後屈の程度、人工呼吸の量
- 胸骨圧迫の深さやテンポ(1 分間に約 100~120 回)
- 圧迫と人工呼吸の比率(30:2)
- AED の使用: パッドの貼り方(小児用パッドがあれば使用、なければ成人用でも可)

2. 実技(20 分)

- デモンストレーション: 講師が人形を使って正しい姿勢・圧迫方法を説明
 - 受講者による実技練習: グループ・ペアで、乳幼児用の人形を使用
 - フィードバック: 圧迫の深さやテンポ、手の位置などを講師が随時修正
-

3. 痙攣(ひきつけ)時の対応(バクスミー含む)(約 10 分)

1. 熱性けいれんなど、子どもの痙攣の特徴

- 痙攣の原因(熱性、頭部外傷、持病など)
- 危険なサイン(長引く痙攣、呼吸状態が悪い、意識が戻らない など)

2. 対応手順

- 周囲の安全確保・ケガ防止(周辺の物をどかす)
- 口に物を入れない、体を無理に押さえつけない
- 痙攣が落ち着いたら呼吸の確認・回復体位など
- 救急車を呼ぶタイミング(初めての痙攣、5 分以上続く、顔色不良など)

3. バクスミー(痙攣止め薬)の説明

- 医師の処方がある場合の使用方法(鼻腔投与)
 - 使い方と保管上の注意
 - 万が一使用しても痙攣がおさまらなかったり、意識レベルが低下していれば速やかに救急要請
-

4. アナフィラキシー(エピペン含む)(約 10 分)

1. アナフィラキシーの症状

- 食物アレルギー(卵、乳製品、ピーナッツなど)、ハチ刺傷 など
- 呼吸困難、蕁麻疹、顔面蒼白、血圧低下 などが同時に起きる場合

2. エピペンの使用方法

- エピペンの構造、打つ場所(太ももの外側前面)
- 実際の打ち方・使用タイミング
- 使用後も症状が改善しない場合は再投与の可能性(医師からの指示・処方に準じる)
- いずれにしても早期の救急要請が重要

3. 日常生活での注意

- アレルギーの原因食物を把握し、除去・制限食を意識する
 - 保育園や幼稚園、小学校との情報共有
-

5. 窒息(誤嚥)時の対応(約 10 分)

1. 誤嚥の起こりやすい場面・食材

- ブドウ、ミニトマト、ゼリー、ナッツ類など
- 食事時の姿勢が悪い、遊びながら食べる など

2. 応急処置

- 意識がある場合: 背部叩打法、乳幼児の場合は胸部突き上げ法
- 意識がない場合: 心肺蘇生を開始する

3. 注意点

- すぐに口を無理やり手でかき出そうとしない(奥へ押し込む危険)
 - 呼吸状態(苦しそう、咳が弱い or できない)を観察して迷ったら救急要請
-

6. 水難事故の対応・予防(約 5～10 分)

1. 家庭内での水難リスク

- 浴槽や洗面器でも溺れる危険性
- 浴槽の水は使わないときは抜く、子どもから目を離さない

2. 外出時の注意点

- プールや海、川での監視・ライフジャケット着用

3. 溺れた場合の対応

- 水中からの救助は無理をせず周囲の大人と協力
 - 救助後、呼吸や意識の確認 → 必要なら心肺蘇生
-

7. 現場での経験談(約 15 分)

ここでは受講者の理解を深めたり、印象を強く残したりするために、**実際の事例**を可能な範囲で共有します。

- 分娩介助
 - 救急隊が到着するまでに分娩が進んだケース
 - 赤ちゃんの産声やお母さんへの声かけの大切さ
- 孫を心配しすぎてパニックになる祖母
 - 家族の取り乱しで現場が混乱することもある
 - 周囲への声掛け・協力がどれだけ大切か
- 交通事故
 - 車内の子どもがケガをしている場合の対応
 - シートベルトやチャイルドシートの重要性
- ピーナッツを鼻に詰ませた子ども
 - 子どもの好奇心が原因になる事故例
 - 焦らず対処して、早めに医療機関へ
- お父さんの自殺事例
 - 心の問題が背景にある場合
 - ショックで動揺している家族への対応の難しさ

注意点

- ショッキングな内容も含まれるため、言葉選び・表現には配慮する
 - 「こういう現場がある」という事実を伝えつつ、受講者が過度に不安にならないようフォロー
-

8. まとめ・質疑応答(残り時間)

- 主要ポイントの再確認
 - 乳幼児の CPR のキーポイント
 - 痙攣(バクスミー)、アナフィラキシー(エピペン)の使い方
 - 窒息と水難の予防と対応
 - 救急要請のタイミングと伝え方
 - 質疑応答
 - 講習全体で疑問点がなかったか確認
 - 日常生活での予防策や、急変時の具体的な対処法など
 - 受講者へのメッセージ
 - 「今日学んだ知識は、いざという時に家族や周囲の人を守る力になる」
 - 「分からないこと、不安なことがあれば遠慮なく消防や医療機関に相談を」
-

進め方のヒント

1. 時間配分のメリハリ
 - 受講者が体験しやすいように、心肺蘇生の実技には十分な時間を確保
 - 話すトピックが多いので、エピソードは短めにまとめて興味を引きながら進める
2. 用意するもの
 - 乳児・小児用の人形、AEDトレーナーなどの実技用機材
 - バクスミー・エピペンのトレーナー(可能であれば)
 - 窒息対策の背部叩打法・胸部突き上げ法の説明用資料
3. ショッキングな事例の伝え方
 - お父さんの自殺例など、重い話題は事前に「少し重い内容のお話になります」と前置きし、配慮を忘れずに
 - ゴールは“不安を煽る”ことではなく、「日頃から声を掛け合い、早めの対応をすること」の重要性を伝える
4. 双方向性を大事に

- 。 質疑応答や、随時「ここは分かりますか？」と問いかけながら進めると理解が深まる
-

以上が、2 時間程度の講習プランです。乳幼児を育てる方にとって、

- ・ **実技を通して“自分でできる”感覚を掴むこと**
- ・ **実際の現場の生の声を聞いて、適切な判断や早めの通報がどれだけ大切かを学ぶこと**

が非常に大きな学びになるはずです。参考にいただき、受講者が安心して受けられる講習をぜひ実施してください。